



2023年
4月 発行

九州手話サークル連絡協議会

URL : <http://www.kyusyuren.org/>

耳の日集会に参加して

長崎県

2023年3月5日(日)、第52回耳の日集会 in 大村が、シーハットおおむらさくらホールにて開催されました。午前の部「卒業スタートライン」・午後の部「ヒゲの校長」の上映会でした。

園田裕史大村市長より、午前の部・午後の部どちらもご自身で歓迎の挨拶を手話でされました。公務多忙中、手話の練習をされたことに聴覚障がい者に理解のある素晴らしい市長だと思いました。

来崎された、聾宝手話映画監督 谷進一氏のゲストインタビューで看護師の仕事をしつつ、休日は映画の撮影をしていると話されました。私も同じ職業ですが、とても真似はできません。休日くらいは、のんびりと過ごしたいからです。頭が下がります。

映画の内容についてはみなさん、ご存知かと思いますが、簡単に紹介します。

●「卒業スタートライン」

昭和40年ろう学校で実際に起こった授業拒否事件をきっかけに、その後の「3・3声明」に繋がる映画です。

●「ヒゲの校長」

高橋潔校長を中心に教師たちがスクラムを組んで、手話を守り続けた実話がもとになっています。

二本の映画を見て、やはり文字よりも映像を通したほうが、更に手話の大切さや手話活動の歴史を理解し、深めることができました。改めて、手話は言語であることを強く感じた日となりました。



長崎県 時津手話サークル 平山 忍



第14回福岡県ろうあ者スポーツ交流会

日時：2023年1月29日(日) 12:00~16:00
場所：クローバープラザアリーナ棟体育館
内容：ボッチャ競技 24チーム
主催：社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会
協力：福岡県手話の会連合会

3年振りにろうあ者スポーツ交流会が開催されました。

今年度は、誰もが参加できる「ボッチャ」競技を行いました。24チームが参加されました。4つのブロックに分かれ3チームで前半2試合、後半はブロック内で1位から6位まで順位を決める形式で行われました。

一つの試合は、4エンド行われ3人対3人の選手でジャックボール(目標球)の白いボールに赤(先攻)・青(後攻)がそれぞれ6球ずつ投げたり、転がしたり、いかに近づけるか競います。相手の一番近い球よりも内側にある球の数で点数が決まります。ボッチャ協会の方に審判をしてもらい、試合の合間に、白いボールの手前にたくさん球がある時は奥に投げて近づけると良い。右投げか左投げによりスロージングボックスに立つ位置を決めた方が良い。投げ方は自由なので、高い位置から落とすと止まりやすい。目標までの距離の3分の2辺りを狙い投げると転がり正確な位置に近づける事ができる等アドバイスしていただきました。



「異議あり」
審判計測中



手話はまだまだですが、ろう者との交流会とても楽しかった。

柳川手話の会 松藤美穂子



初めての参加、ぶっつけ本番でしたが楽しかったで〜す。次回も期待。



優勝4チーム

「久留米」久留米市

「みたらし団子」
福岡市東区



初めてのボッチャでした。

ろう者と一緒で交流会楽しかった。

朝倉手話の会 西村敬司・山田桜子



「水の郷やながわ」柳川市「柳川うなぎ」



第 52 回福岡県ろうあ者耳の日 記念集会
～手話言語条例の早期実現～ 令和5年3月5日(日)
会場:北九州市 黒崎ひびしんホール



主催者挨拶
大澤五恵 理事長

長谷川翔平氏

江副悟史氏



第 52 回福岡県ろうあ者耳の日記念集会在北九州市立黒崎ひびしんホールで「悟史と翔平 2 人トーク & ちょっと芝居」が開催されました。

江副氏は 2008 年に社会福祉法人トット基金「日本ろう者劇団」に入団し、現在は代表を務める。他にも手話狂言、俳優、手話弁士、など幅広く活動している。長谷川氏 2018 年「日本ろう者劇団」に入団、手話狂言デビューし活動している。

今と昔の違いの話で待ち合わせの連絡方法、今はスマホでのメールで簡単だが、携帯電話のない時代は駅の「伝言板」の利用、ファクスでのやり取り。(日にち・場所・時間)を(イラスト)で実に分かりやすく書き相手に伝える。なるほどと改めて感動でした。ファクス用紙は感光紙でロール巻きのため長〜く続いたものでした。ろう者劇団のお話の中に何度か伊崎さんや今は亡き米内山さんが登場し懐かしい想いがしました。また、狂言も和泉流と大蔵流があり手話狂言は和泉流で、流派によって手話表現に違いがあることを初めて知りました。

二人のトークと言うか「ちょっと芝居」と言うか、手話劇には美的機能を強く持っていると感じました。手話表現には、動きの表現、形の表現、感情の表現、写実描写、映像描写の美しさがある。リズム、テンポ、メロディーやアクセントも加わり、手の動きで表す美しさがあると。何かの本で読んだことがあります。トークはやはり二人のやり取りや表情を同時に見て楽しいものですね。後席で二人の表情や手の動きが見えにくく、スライド見れば画面は大きい話し手だけで、相手とのやり取りが見えず残念な思いで帰路につきました。

福岡県 北九州手話の会新虹の会 濱 ジツ子

今回 2 回目の福岡県ろうあ者耳の日記念集会に出席しました。

江副さん、長谷川さんの 2 人トーク & ちょっと芝居!

日本ろう者劇団についてのお話があり、困ったこと勉強になったこと、劇団に入ったきっかけなど聞いて多くのことを考えることができました。

私自身、ろう者劇団には以前から興味がありましたので、お話を聞くことができ良かったです。ろう者の方の昔と今の違いについては、実例のお話があり、連絡方法など昔と今の違いがよく理解できて楽しいお話でした。

絵を使ってのやりとりするお話はとても興味深かったです。駅での待ち合わせや学校のテスト、朝起きる方法など身近なお話が聞けてとても参考になりました。

これから、もっと聴覚障がいや手話言語について興味、関心を持ってくれる方が増えることを期待し、私自身も改めて、“手話とは何か”と考えたいと思います。

福岡県 北九州手話の会新虹の会 戸畑支部 西田しのぶ



2022年度 県手連研修会

大分県

2022年度の大分県手連研修会が12月11日に開催され、大分県聴覚障害者センターの研修室に集まった会員とZoom視聴者が参加しました。

今回は、主に事前に収録した映像を使つての研修でした。「歴史ある大分県立聾学校～昔 今 そして、これから～」の題目・テーマどおり、聾学校実習教師の河津知子さんの進行により、まず、昨年3月に新設された聾学校の様子が映像で紹介されました。

そのあと、河津さんのほか、4人の卒業生によって昔の思い出と今後の聾学校に向けての期待などを対談形式で語り合っていたいただき、また、実際に会場に参加していた卒業生3人から、聾学校への思いなどを話してもらいました。

盲学校などが一緒になった新校舎の内部は、生徒たちの思いが伝わってきましたし、今では考えられないような旧学校や寄宿舎での思い出話にも引き込まれ、1時間半があつという間に過ぎた有意義な研修会でした。

大分県 はぐるま夜の部 寺司 知仁



令和4年度 鹿児島県手話サークル連絡協議会 活動報告

鹿児島県

**「楽しい!また参加したい!サークル活動」
をテーマに1日研修会を行いました。**

令和5年1月22日鹿児島県社会福祉センター大会議室にて開催いたしました。

コロナ禍でしたので中止にするか、集合開催にするか、リモート開催にするか直前まで悩みました。結果、県社会福祉センターをメイン会場に、奄美の会員は自宅からのオンライン。又、会場に来られない方も、自宅からのオンラインでも参加可としました。

講師は池元正美氏(キャリアコンサルタント)にお願いしました。お名前を見て女性だと思い込み、講師の先生まだ?と待っていたところ、早く来て待っていた写真の方でした。後の講話にも出てきましたが思い込みはダメということを実感した次第でした。

まずは「活性化」という言葉について考えました。活性化する必要があるのかどうか?また、組織としての目標は何か?サークルとしてどうしたらいいのか?をしっかりと考える。サークルメンバーのそれぞれを理解し個々の違いを組み合わせ、活動していく。これが活性化につながる。



話し合うことで、自分が気づかなかったことを発見できる。これが大切なこと。手話サークルで言えば、手話を覚える、聴覚障害者のことを知るということに固執せず、手話で会話するのは楽しいなど、手話を使い交流する中で感じること(仲間意識など)に気づく。

リーダーとして必要なことは、お互い信頼関係が作れるよう支援する。自由に話せる場所作り。難しい言葉をわかりやすく説明できる力だと学びました。

風通しの良い組織作りが必要という話だったのですが、私自身、頭の中に新鮮な風を吹き込まれた感があり、さわやかな気持ちで帰ることができました。

～令和4年度 県手連最後の大きな行事を終えて～

研修後、記入いただいた、たくさんのアンケートを来年度の活動に活かしていこうと思いました。今後リモート開催が予想されるため、必要な知識をしっかりと身につけなければ等々課題もあります。「みんなで集い、楽しく語ろうよ」のテーマのもと県手連活動が有意義なものになるよう、新年度も理事一同協力してまいります。

～お知らせ～

令和5年10月かごしま国体(特別国民体育大会)・かごしま大会(特別全国障害者スポーツ大会)が開催されます。

手話サークル会員である私たちも、できる限りの協力をして全国のみなさまをお迎えします。お会いできることを楽しみにしています。

鹿児島県 奄美手話サークル 緑川 晴美

まっちょいもんで～
(お待ちしていま～す)



「県わかぎ研修会に参加して」

研修会で乗富さんの講演を聞いて、聴文化とろう文化の違いや、ろう文化の理解が広がれば、お互い協力し合っ
て積極的な交流が出来るということを考えてみました。

現在は大学生になられた乗富さんのろうの息子さんの成長記録のDVDでは、お母さんの絵本の読み聞かせや誕生日の様子を拝見し、その中に映された社会や家庭での情報、ご両親のやりとりを見ると、子どもの成長過程では手話も音声言語と同じように発達を遂げているということが見て分かり、また成長の様子がとてもほほえましく感じました。



手話はろう者にとって言語というだけでなく、生きる為に必要なものです。ろう者と手話サークルもお互いを理解し、協力し合う関係でありたいと乗富さんは話されました。

午後の小野さんの話は、どこのサークルも直面している、今後の「手話サークルの在り方」についてでした。難しい問題ですが、皆で今後話し合っていく必要があると思います。

今、テレビでは手話をテーマに取り上げたドラマがあり、若い人たちの間で手話がブームになっているとか？一時的なブームで終わらず、若い人たちが関心を持ち続け、手話講習会を受講し、ゆくゆくはサークルに入ってもらい、もっと楽しい手話サークルになればいいと思います。

乗富さんと小野さんのお話をきいて、気づかされることもあり、とても貴重な時間でした。

研修会に参加して、本当に良かったです。

熊本県 八代わかぎ 澤村 俊子



【耳の日記念の集い（3月19日）】

佐賀県

第63回耳の日記念の集いが、3月19日（日）武雄市北方町公民館文化ホールにて約270名を集めて開催されました。講師に那須英彰氏と那須映里氏をお招きし、「面白トークショー父娘バトル」のテーマで興味深いお話しが聞けました。

那須さん親子の軽快なやりとり、お二人のキャラクターがよくわかるエピソード満載で、あっという間の時間でした。父娘のくすっと笑える関係性、どちらも好奇心旺盛で活動的で、魅力的な人柄が伝わってきました。海外話も多かったので、私もそろそろ外へ行きたい…とうずうずなりました。

映里さんの幼少期の話などは、へー！ほー！なるほど！と興味深く、え！そんな話するの？と驚きもあり、子育てにおいて親の考え方や方針って、やっぱり大事で影響大きいなあ、と改めて思いました。

ステージと客席が近く、直接お二人の話を見ることができたことに感謝です！

佐賀県 ひまわり手話の会 ○

【佐賀県手話の会連絡協議会研修会】

佐手連研修会が3月21日（春分の日）に唐津市相知交流文化センターにて開催され約60名が参加しました。研修テーマは「手話言語条例」について。

佐賀県聴覚障害者協会の中村稔理事長に講演していただきました。

手話言語条例の制定を目指して、私たちのサークルでも学習が始まっています。条例の制定の為に、何をすればいいのかわからない中で、このような講演をして頂くのは有難いことだと思います。私もまだまだ勉強不足ではありますが、「手話は言語である」「手話はいのち」という事に対する理解が全ての人たちに広がる為に、私たちには何ができるか、皆さんと一緒にこれから考えて、活動していけたらと思います。自分もいずれ高齢になり、耳が聞こえにくくなる時が来るかも知れない。その時に、自然に周りの人と手話で話せるような社会が理想です。

条例が制定された唐津市や武雄市の、条例が制定されてから変わった事なども、お話を聞いてみたいなと思いました。20年後の私たちが、「あの時は大変だったけど、頑張ってた良かった」と、笑って話せるようになりたいですね。

佐賀県 小城市手話サークル A



編集後記



我が家の庭に植えたハナミズキも新しい葉を芽吹き、暖かい日差しに春の訪れを感じる今日この頃です。

今回の「はっけん4月号」では「耳の日事業、県手連活動報告」をテーマに各県より寄稿頂きました。発行にあたり、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。よろしければ、九手連ホームページ「掲示板」へ皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。

6月25日(日)は、第31回九手連研修会が佐賀県で行われます。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。



九州手話サークル連絡協議会
発行責任者 池尻 和吉
事務局長 小濱 規男
広報担当 熊本県 橋本 健一